

令和5年度 かながわティーチャーズカレッジ

COLLEGE NEWS

カレッジニュース



令和5年12月3日 発行
神奈川県立総合教育センター
かながわティーチャーズカレッジ事務局
(教育人材育成課キャリア開発班)

第8回 かながわ教育学講座

令和5年11月19日、第8回かながわ教育学講座が開催されました。第8回教育学講座のテーマは「児童・生徒指導」です。神奈川県立総合教育センター 加藤教育指導員による講義が行われました。また、グループ活動では、講義の内容を受け「いじめ」を題材とした小グループでのロールプレイを行いました。

講義「児童・生徒指導」



講義では、「いじめ」の早期発見・対応についてや、文部科学省の「生徒指導提要」、神奈川県の「令和4年度神奈川県児童・生徒の問題行動・不登校等調査」について話がありました。また、「いじめ防止対策推進法」（2013年（平成25年）6月28日公布）によって、『対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの』と「いじめ」が定義されていること等も説明されました。

「いじめ」が分かったとき、『①安全の確保、②孤立化の解消、③二度と孤立させない！という大人の責任ある保障の言葉・その実行』（中井久夫『いじめの政治学』）の三つをしていくことの重要性が説明され、「いじめの芽」に気付き、すぐに対応することの大切を学びました。



神奈川県教育委員会

グループ活動

グループ活動では、教師役、児童・生徒役（加害者、被害者、傍観者）に分かれて「いじめ」についてロールプレイを行いました。ロールプレイを通して、それぞれが感じたことや気付いたことを共有し、教師の対応によって、児童・生徒の感じ方が異なることを体験しました。その後の協議では、いじめを未然に防ぐ方法について話し合う様子が見られました。



受講者のワークシートより

《オープンコース》

今回はいじめについて学んだ。いじめに早期に対応することの大切さをよく感じる事ができた。自分が実際にいじめに遭遇した時、絶対に自分一人で対応することはできないと思うので、他の先生と協力して対応していくように心掛けたい。気になった時点で何らかのことが起きている可能性があるため、気になるだけで終わらせず、きちんと確認することを心掛けることが大切だと感じた。被害者の子どもの意思を確認し、対応することが大切なため、対応に関しては慎重に行っていくことを心掛けたい。

いじめのロールプレイの構成を考えていく中で、いじめは強い人と弱い人との間でのみ起こるというイメージがあったが、距離が近い関係の中でちょっとしたことから起こるのだと気付いた。また、他のロールプレイを見ていて、教員はいじめのようなことが起きたときに、とっさにどのような言動ができるのかという事が大切であり、普段から考えておくことが大事だと思った。また、いじめに対して、自分の考えていた対応以外にも色々な対応の方法があることを知り、実際に教員になってからも、より良い対応方法を検討することが大切だと考えた。

《チャレンジコース小学校》

講義では、いじめが「特別な状況ではない」ということが特に印象に残っている。報道などでいじめによる悲しいニュース等があるが、実際の学校現場ではそのような結果につながる芽があるということだ。それをいかに早く摘むかということを重要視していくことが必要である。それを踏まえ後半のロールプレイでは様々な立場に立って考えることができた。いじめを見逃すことはどの対象にとってもプラスになることはなく、学級が崩壊するきっかけになる。また、今の自分では広い視野や変化に気付くことができないかもしれない。読書や事例を知ることで知識を増やし、普段から視野を広く持つことを意識して過ごしたい。

いじめが起きた時の行動や、未然に防ぐより良い方法等の知識はあるが、それが通じるのかはまた別の話で、いくら教師がいじめを許さないような体制をとっていても、する子はするし、そういう子に対してはどう対応すればよいのか、いまだに疑問がある。「自分がされたら嫌なことはない」「いじめがだめだ」という意識をもっていない、何を言われてもそのような意識をもたない児童には、時間をかけてゆっくり、色々な人の力を借りながら、チームで対応していくのが大切だと思った。

《チャレンジコース中学校英語又は高等学校英語/中学校国語又は高等学校国語》

ニュースや新聞でいじめの報道を見ていると、いじめがある学校に「ありえない」という不信感を抱き、いじめがある学校が特殊であると考えてしまっていました。しかし、今回の講座で「いじめは特別な状況ではない」という認識の大切さがわかりました。どの学校でも、どの生徒でも、些細なことでいじめが生まれる可能性があるという認識を忘れず、いじめの芽に気付き、いじめの芽を摘み取るクラス運営をしていくべきだと思いました。具体的には教育関係の本を読んで集団心理を学ぶことと、SL Sの活動で休み時間や放課後の生徒の様子を見に行き、生徒の様態を把握していきたいと思います。